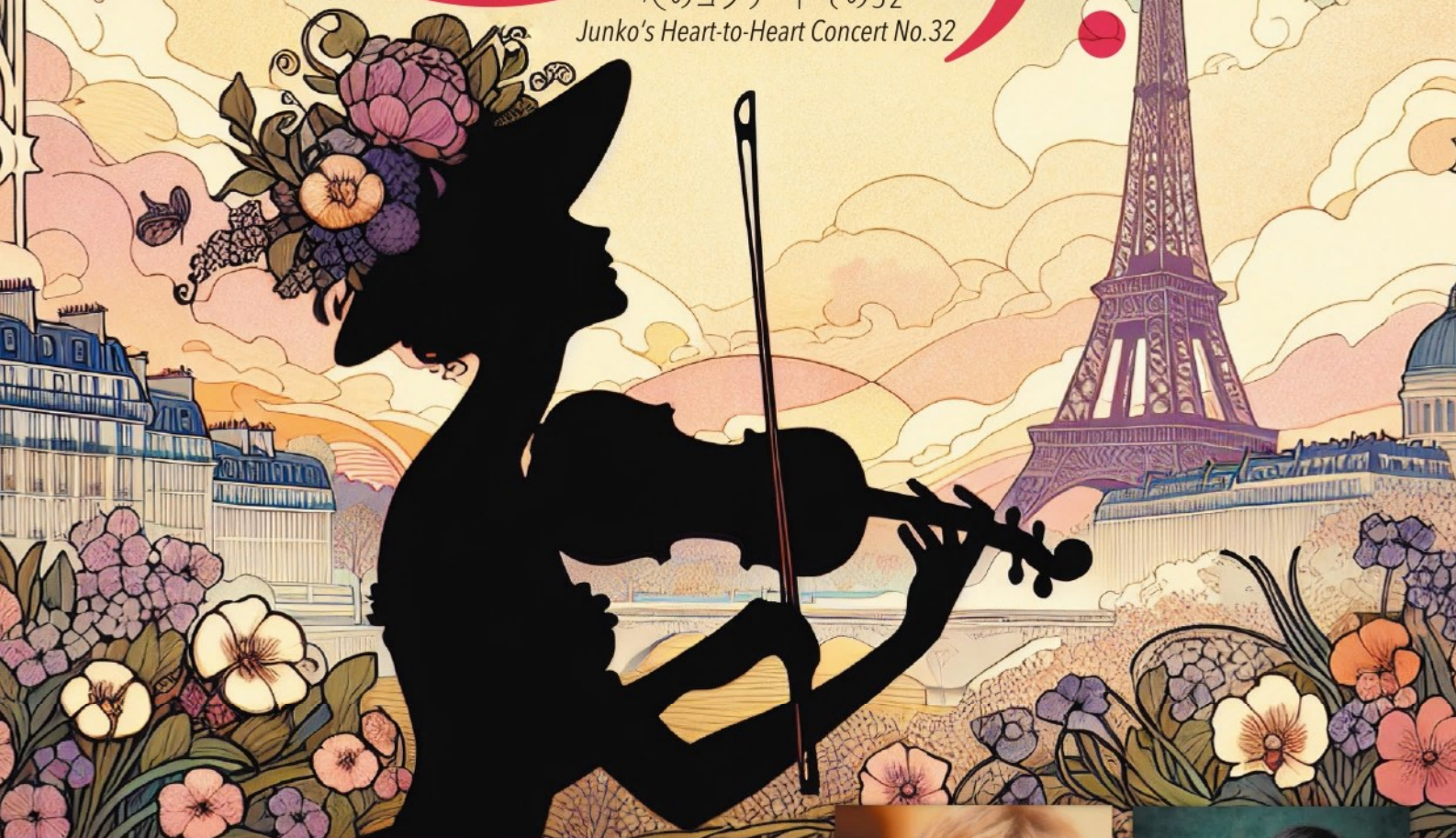


音楽逍遥

テーマはパリ!

The Theme is Paris!
[Part1]

心のコンサート その32
Junko's Heart-to-Heart Concert No.32



2024.4.21 (日曜)

15:30開演 (15:00開場)

代官山ヒルサイドプラザ
(ヒルサイドテラス内)

一般 5,000円 (高校生以下半額)

【協賛】株式会社ICMG、Do Good Associates、ヒノキ新薬株式会社

【協力】株式会社 小田原 鈴廣、合資会社 大和川酒造店、ワインズ新富屋、

NPO えこお、株式会社 Dia-cubed

【主催】大津純子室内楽実行委員会



Pianist



Irena Kofman



Cellist



Gen-ichi Watanabe

出演

大津純子/ヴァイオリン

イリーナ・コフマン/ピアノ

渡部玄一/チェロ

お申込み・お問合せ 大津純子室内楽実行委員会

Tel & Fax ▶ 03-3486-8740 Internet ▶ <http://www.junko002.com/>

※Faxご利用の場合は、裏面の申込書をお使いください。

ホアキン・トゥリーナ：ピアノ・ヴァイオリン・チェロのための幻想曲“環” 作品91(1942)

Joaquin Turina (1889-1942): “Circulo”, Fantasia para Piano, Violin y Violoncello (1942)

マニエル・デ・ファリャ/ クライスラー：スペイン舞曲第1番(オペラ『はかない人生』より)

Manuel de Falla (1876-1946) / Fritz Kreisler (1875-1962): Danse Espagnole from the Opera “La Vida Breve”

モーリス・ラヴェル：ハバネラ形式による作品 (1907)

Maurice Ravel (1875-1937): Pièce en forme de Habanera (1907)

クロード・ドビュッシー：月の光『ベルガマスク組曲』より (1890)

Claude Debussy (1862-1918): Clair de Lune from Suite Bergamasque (1890)

ジュール・マスネ：タイースの瞑想曲～オペラ『タイース』より (1893)

Jules E.F. Massenet (1842-1912): Thaïs: Méditation (1893) from the Opera “Thaïs”

クロード・ドビュッシー：ピアノ・トリオ ト長調 L. 5 (1880)

Claude Debussy (1862-1918): Piano Trio G major, L. 5 (1880)

(曲目は変更になることがあります)



東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業。同音楽院在学中にジュネス・ミュージカル・インターナショナル及びカーネギー・ホール共催のもとニューヨーク・リサイタル・デビュー。ニューヨーク・タイムズ紙上、「卓越した演奏“将来を大きく期待される演奏家”と絶賛される。その後、

アメリカを拠点に演奏活動を開始。セント・ルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他と協演。リサイタル・プログラム《The Artistry of Junko Ohtsu》はパブリックTVネットワークにて全米40都市で放映され、ラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリア、ベトナム、フィリピン、中南米諸国に於いて公演し賞賛を博す。

『アメリカ』、『ヴァイオリンの詩〜ベル・エポック』、スペイン音楽選集『マラゲーニャ』(各・日本フォンテック)、『Prelude to a Kiss』(BAJ Records) などCD5枚をリリース。『マラゲーニャ』収録曲のE.グラナドス作曲ヴァイオリン・ソナタは、“素晴らしい録音”(音楽評論家・諸石幸生氏)と評価高い本邦初録音となる。アメリカ女流音楽家と構成するEcco Trio (ピアノ・トリオ) によるアルバム『アメリカ』は『レコード芸術』誌「室内楽準推薦盤」に選出された。2011年2月、東北地方民謡集を取めたDVD『あいの風 ~ Wind from Northeast』をプロデュース・リリース(その収益全額は東日本大震災復興支援のために寄付)。意想外の企画とヴァイオリンによる津軽・南部地方民謡(編曲)演奏の新鮮なアプローチは称賛的となる。

1999年より国立情報学研究所主催《軽井沢土曜懇話会》(情報工学に於ける権威、故・猪瀬博氏開設)に招待を受けレクチャーコンサートを毎年継続。2005年より東京・代官山ヒルサイドプラザにて年2回《心のコンサート・シリーズ》を開催し現在に至る。2012年“音楽の楽しみ”を届ける出張演奏会《純子のミニ・キャラバン》を開始し、日本各地の幼稚園・小学校・中学校を訪問。2023年、西武文理大学のホスピタリティ大使・特命教授に就任。執筆・講演の分野にも活動の場を広げている。

2024年秋の情報

心のコンサート その33 《音楽逍遥》
～テーマはパリ! (Part 2)

2024年10月20日(日曜) 15時半開演(15時開場)

出演: 大津 純子・ヴァイオリン、鷲宮 美幸・ピアノ

■コンサートお申込み書 (FAX送信先: 03-3486-8740)

お名前

ご連絡先

ご住所

名



イリーナ・コフマン ピアニスト

Irena Kofman, pianist

旧ソヴィエト連邦生まれ。アメリカ国籍を得て同国に移住し、マイアミ大学にて博士号取得。ソリスト、室内楽奏者、レコーディング・アーティスト、教育者としてアメリカを拠点にオーストリア、ドイツ、スイス、フランス、東欧を含むヨーロッパ各地、アジア諸国など世界20カ国以上で幅広い多彩な活動を行っている。「煌びやかなフレージングとテクニカル・コントロールに裏打ちされた、深い感情移入と音楽表現がコフマン独自の世界を創出している」とはアメリカ人音楽評論家ローレンス・バドメン氏の称賛の言葉だ。

『アルカンジェロ・ピアノ四重奏団』を設立し長年にわたり活動。また、グライラマ14世による『Compassion as a Pillar of World Peace』大会に招かれて演奏。2013年以降、著名なベルギー人ピアニスト、アンドレ・デ・グロート氏とピアノ・デュオを組み3枚のレコーディング・アルバムをリリース。現在、フロリダ州アトランティック大学准教授、及び、キーボード・スタディのディレクターを兼任。また、クレモナ国際音楽アカデミー教授としても活躍中。数多くの優秀な若手ピアニストを輩出し、優れた教師としての高い評価のもと the American Protégé International Competition (アメリカン・プロテジェ・国際コンクール) から6年間にわたり特別ディプロマ受賞。2018年アルメニア作曲家による作品を国際的に紹介する積極的な演奏活動に対し the Armenian Diaspora Ministerよりメダルを授章。2022年フルブライト・シニア・スカラーとして台湾にて教鞭をとる。大津純子とはアメリカに於ける共演が多く、一緒に新作のレコーディングも行っている。



渡部玄一 チェリスト

Gen-ichi Watanabe, Cellist

東京藝術大学附属高校、桐朋学園大学、ジュリアード音楽院卒。インディアナ大学でもさらに研さんを積み、帰国。以来、NHK-BS、NHK-FM出演をはじめ、ソロ・室内楽・オーケストラ奏者として幅広く活躍。CD『It's Peaceful Here ここは良きところ』リリース。著作に『知的生活の方法一音楽編』(共著、ワック出版)、『ワタナベ家のちょっと過剰な人びと』『明朗であれ 父、渡部昇一が遺した教え』(海竜社出版)などがある。現在、読売日本交響楽団団員、及びフェリス女学院講師。

